



令和6年1月29日(月)発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

- 相手の立場に立って考える思いやりのある子ども
- すすんで学び、自ら考え、表現する子ども
- 元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

- 安全な学校 ○温かい学校
- 笑顔があふれる学校
- 「中島小大好き」と言える学校
- 成長(学習)し続ける学校
- 保護者・地域・関係機関と連携する学校

阪神・淡路大震災から29年「ともに1・17」

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生しました。戦後初の大都市直下型地震は、関連死を含め6434人の命を奪い、3人が今もなお行方不明です。人々の住まいや仕事など暮らしの土台を崩壊させたあの日から29年・・・地震が起きた時刻の午前5時46分を中心に、神戸市など大きな被害を受けた地域で追悼行事があり、多くの人が祈りを捧げました。

追悼行事「1.17のつどい」が行われた神戸市中央区の公園「東遊園地」では、同日の早朝から用意された竹や紙の燈籠にろうそくの火が灯されました。「1.17のつどい」は、阪神・淡路大震災で亡くなった人たちを追悼するとともに、震災で培われた「きずな・支えあう心」「やさしさ・思いやり」の大切さを次世代へ語り継いでいくための追悼行事として、毎年行われています。今年も、「1995」「ともに」「1.17」という文字になるように燈籠が並べられ、地震が発生した午前5時46分には、訪れた人たちが静かに手を合わせ、犠牲者に黙とうを捧げました。「ともに」という言葉は公募で選ばれており、石川県能登半島地震の被害者への思いも込められています。

阪神・淡路大震災では、古い耐震基準だった建物の倒壊、室内の家具の転倒に加え、火災の被害が目立ちました。死因のほとんどは、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫によるものでしたが、火災によるものもありました。また、火災の原因が特定された建物火災の約6割が、「通電火災」だったということです。

阪神・淡路大震災では、古い耐震基準だった建物の倒壊、室内の家具の転倒に加え、火災の被害が目立ちました。死因のほとんどは、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫によるものでしたが、火災によるものもありました。また、火災の原因が特定された建物火災の約6割が、「通電火災」だったということです。

通電火災とは??

大地震が発生した際は、広範囲で停電が発生する可能性があります。このときブレーカーを落とさずに外へ避難すると・・・電気が復旧した際に、地震で倒れていた家具の下敷きになっていた電化製品が再び作動。これが火元となって起こるのが「通電火災」だそうです。避難後無人となった後に電気が復旧し出火するため、発見、消火が遅れ、揺れで散乱した室内の物に引火し、あっという間に火災が拡大してしまうのです。皆さん、避難の際は「ブレーカー」を落として避難しましょう。

津波による避難訓練を実施しました!

中島小学校では例年、阪神・淡路大震災が発生した1月17日前後に、地震による避難訓練を実施しています。今年も、1月17日(水)の2校時、各教室でのシェイクアウト訓練の後、津波による避難訓練を行いました。地震の後、津波が発生するという想定です。

気象庁が、最大震度5弱以上と推定した地震の際に、強い揺れ(震度4以上)が予測される地域を可能な限り素早く知らせる情報を、「緊急地震速報」と言います。携帯電話会社では、気象庁から配信された「一般向け緊急地震速報」を利用して、全国の携帯電話に一斉配信します。また、そのほか携帯電話会社を通じて携帯電話に配信されるものには、気象庁から配信される「津波警報」及び国・地方公共団体から配信される「災害・避難情報」があります。

本校では、「津波警報」の情報を基に校舎の3階へ、更に高い津波の場合は校舎屋上へ避難します。1・2年生とふじ組・すずかけ組は3階廊下に、3～6年生は教室後方に並ぶ訓練をしました。その後教室で津波に関するDVDを視聴しました。みんな集中して取り組むことができました。

地震 がおきたら (教室)

- あわてて外へとび出さない
- すぐに、机の下にもぐる
- 机の脚の前と後(対角)の上部を
しっかりとぎる

地震・津波の避難訓練での校長講評より(一部抜粋)

(前略) 始業式でもお話ししたように、1月1日午後4時10分ごろ、石川県の能登半島というところで、大きな地震が起きました。その地震で、建物が壊れたり、津波が起きたり、大きな火事が起きたりしました。津波については、地震発生直後、日本海側の広い範囲に津波警報や津波注意報が出され、私たちが住んでいる北九州市にも津波注意報が出されました。幸い被害はありませんでしたが、中島校区には津波災害警戒区域があるので、校長先生はとても心配しました。皆さんの中にも、不安だった人がいるのではないのでしょうか。(中略)

今回の令和6年能登半島地震や、13年前に起きた東日本大震災のように、津波が起きる主な原因は地震です。地震が起きたら、今日のように、まず揺れが収まるまで体制を低くして身の安全を守ります。揺れが収まったら、避難を始めます。今日は津波が起きたら・・・ということで、高いところへ避難しましたが、津波が起きなかった場合、運動場に避難するなど、避難の仕方は違います。放送と先生の指示をしっかりと聞くことが命を守ることにつながります。

地震や津波を防ぐことはできません。でも、被害を減らすことはできます。そのために、避難訓練はとても大切です。これからも避難訓練には真剣に取り組みしましょう。(後略)